

# 「起業と起業意識に関する調査」

～アンケート結果の概要～

I	調査目的と実施要領	-----	1
II	調査結果		
1	起業意識の分布	-----	3
2	起業家・起業関心層・起業無関心層の違い	-----	4
3	起業家の実態	-----	9
4	起業関心層の実態	-----	14
III	まとめ	-----	22

<問い合わせ先>  
日本政策金融公庫総合研究所  
小企業研究第一グループ  
Tel 03-3270-1687  
担当 山田、村上

# I 調査目的と実施要領

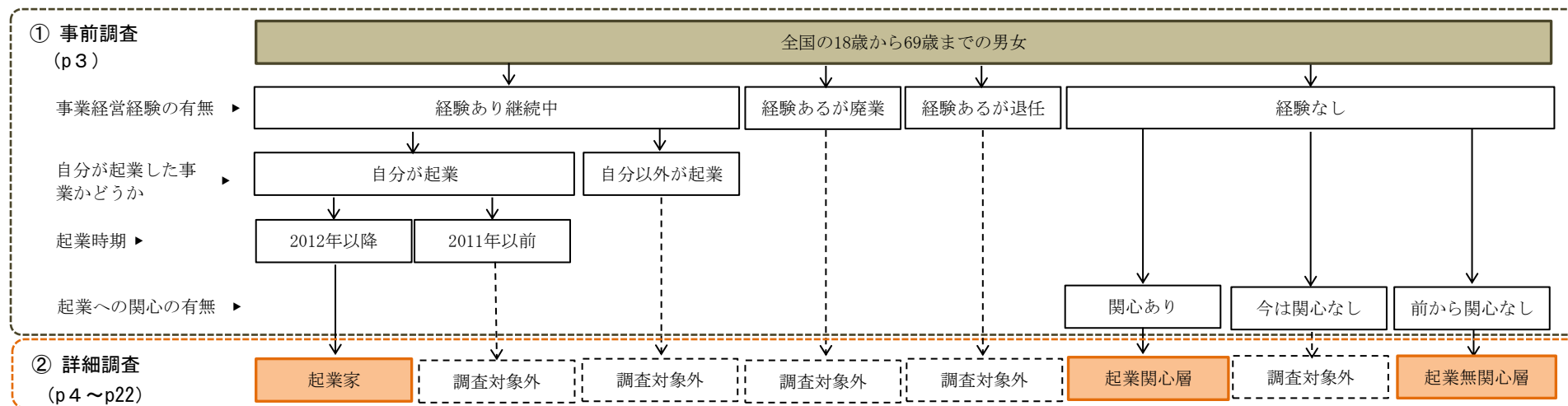
## 1 調査目的

日本政策金融公庫総合研究所では、新規開業の実態を把握するために、1991年から毎年「新規開業実態調査」を実施している。しかし、同調査の調査対象は、開業前後に日本政策金融公庫から融資を受けた企業に限られるという制約がある。そこで、同調査を補完し、「起業前後に融資を受けなかった人」や「まだ起業していない人」などにも焦点を当てるため、インターネットを用いたアンケート調査（「起業と起業意識に関する調査」）を実施した。同調査は2013年度から実施し、今回で5回目を数える。

## 2 実施要領

- (1) 調査時点 2017年11月
- (2) 調査対象 全国の18歳から69歳までの男女
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート（事前調査と詳細調査の2段階）  
インターネット調査会社から登録モニターに電子メールで依頼し、ウェブサイト上の調査画面に回答者自身が回答を入力。
  - ① 事前調査 … 本調査の調査対象（「起業家」「起業関心層」「起業無関心層」）に該当するかどうか等を判別するための簡易なアンケート
  - ② 詳細調査 … 調査対象の該当者（「起業家」「起業関心層」「起業無関心層」）に対して行う詳細なアンケート

### <調査対象の選別方法>



### (4) 回収数

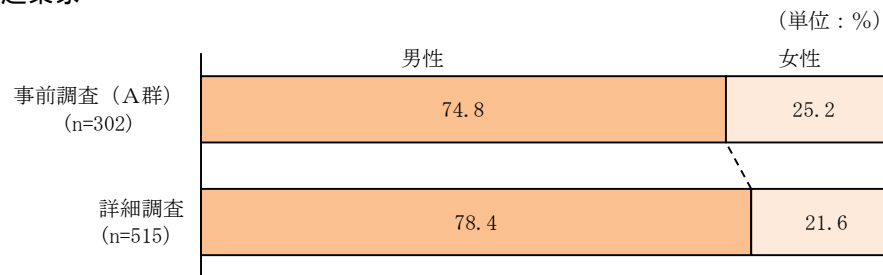
	① 事前調査	② 詳細調査		
		起業家	起業関心層	起業無関心層
合計	31,089人	515人	933人	524人
A 群	25,876人	157人	933人	524人
B 群	5,213人	358人	0人	0人

(注) 1 事前調査 (A群) の調査対象は、性別、年齢階層 (10歳さざみ)、地域 (8ブロック) を「国勢調査」(2015年) の人口構成に合わせて回収数を設定した。  
2 事前調査 (B群) は、「起業家」のサンプル数を確保するために、その出現率が高いと思われる属性をもつ人に対して行ったものである。

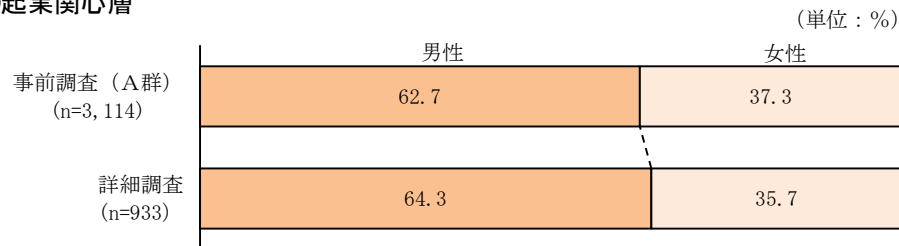
### 3 回答者の概要

#### (1) 性別

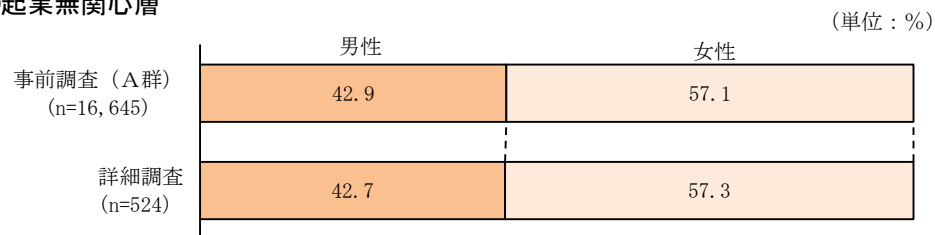
##### ① 起業家



##### ② 起業関心層

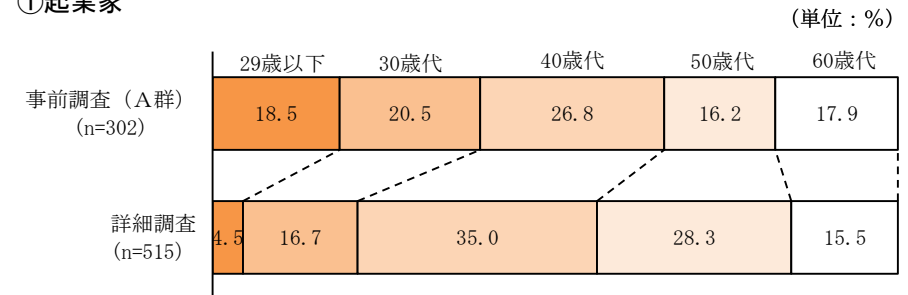


##### ③ 起業無関心層

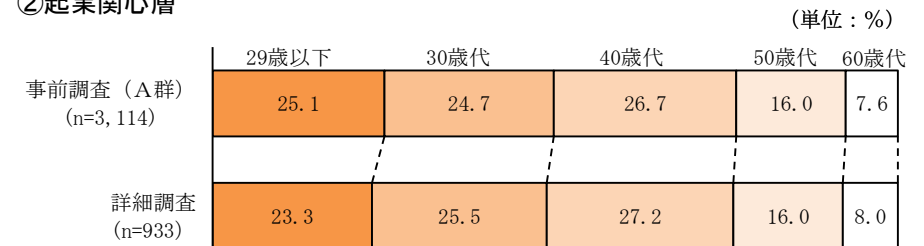


#### (2) 調査時点の年齢

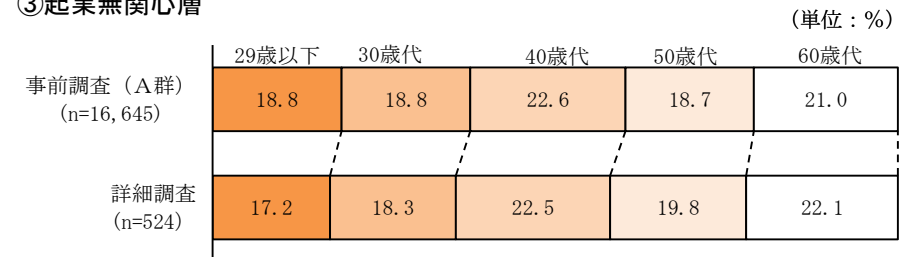
##### ① 起業家



##### ② 起業関心層



##### ③ 起業無関心層



(注) 1 構成比は四捨五入して表示していることから、合計しても100%にならない場合がある (以下同じ)。

2 【再掲】事前調査A群の調査対象については、性別・年齢階層(10歳きざみ)、地域(8ブロック)を「国勢調査」(2015年)の人口構成に合わせて回収数を設定した。

#### 4 ウェイトの設定(詳細調査のサンプル)

詳細調査における起業家、起業関心層、起業無関心層の性別・年齢別構成比は、実際の人口構成を反映している事前調査(A群)と比べて偏りが生じている。そこで、詳細調査の集計にあたっては、事前調査(A群)の性別・年齢別構成比に近似させるために、23ページに記載のとおりウェイト値を設定した。以下では、ウェイト値による重みづけを行った集計を示す。ただし、n値(サンプル数)は参考として原数値を示す。

## II 調査結果

### 1 起業意識の分布（事前調査）

～年を追うごとに減少する起業関心層～

- 事業経営経験の有無、自分が起業した事業かどうか、起業年、起業への関心の有無の4項目によって調査対象を類型化したところ、起業無関心層（経営経験がなく、以前も今も起業に関心のない人）は全体（全国の18歳から69歳までの男女）の64.3%を占める（表-1）。一方、起業関心層（経営経験がなく、現在起業に関心がある人）は12.0%、起業家（2012年以降に自分で事業を起業し、現在も経営している人）は1.2%であった。
- 性別にみると、男性は起業家が1.7%、起業関心層が15.0%を占め、女性は起業家が0.6%、起業関心層が9.0%を占める。
- 過去の調査結果と比較すると、起業関心層の割合は、2013年度の17.3%から年を追うごとに減少している。

表-1 事前調査による類型化

					（単位：％）				
					全体 (n=25,876)	男性 (n=13,015)	女性 (n=12,861)		
事業 経営 経験 の有 無	現在事業を 経営している	自分が 起業し た事業 か どうか	自分が 起業し た事業 である	起業年	2012～2017年	1.2	1.7	0.6	→ 起業家
				2001～2011年	1.6	2.5	0.7		
				2000年以前	1.8	2.7	1.0		
		自分が起業した事業ではない				2.4	3.1	1.6	
	事業を経営したことはあるが、廃業等によりすでにその事業に関わっていない				3.3	4.3	2.4		
	事業を経営したことはあるが、退任等によりすでにその事業に関わっていない				3.7	4.1	3.2		
	事業を 経営し たこと はない	起業 への 関心 の有 無	起業に関心あり		12.0	15.0	9.0	→ 起業関心層	
以前は起業に関心があった			9.7	11.7	7.7				
以前も今も起業に関心なし			64.3	54.9	73.9	→ 起業無関心層			
合 計					100.0		100.0	100.0	

<参考>過去の調査結果

				（単位：％）			
2016年度 全体 (n=24,993)	2015年度 全体 (n=42,097)	2014年度 全体 (n=40,220)	2013年度 全体 (n=31,247)				
1.5	1.2	1.4	1.9				
2.0	1.3	1.4	1.5				
2.3	2.0	2.8	3.4				
2.0	2.2	2.5	2.9				
3.2	3.5	3.6	8.2				
4.2	2.1	2.6					
14.3	15.6	15.7	17.3				
9.7	10.4	11.1	10.7				
60.6	61.7	58.9	54.1				
100.0	100.0	100.0	100.0				

資料：日本政策金融公庫総合研究所「起業と起業意識に関する調査」（2017年）（以下同じ）。

- (注) 1 事前調査A群を集計したものである。  
 2 2013年度調査では、事業経営経験の有無は「現在事業を経営している」「事業を経営したことはあるが、すでにその事業に関わっていない」「事業を経営したことはない」の3区分である。また、起業年を「2008～2013年」「2001～2007年」「2000年以前」に区分し、このうち「2008～2013年」を「起業家」としている。  
 3 2014年度調査では、起業年を「2009～2014年」「2001～2008年」「2000年以前」に区分し、このうち「2009～2014年」を「起業家」としている。  
 4 2015年度調査では、起業年を「2010～2015年」「2001～2009年」「2000年以前」に区分し、このうち「2010～2015年」を「起業家」としている。  
 5 2016年度調査では、起業年を「2011～2016年」「2001～2010年」「2000年以前」に区分し、このうち「2011～2016年」を「起業家」としている。  
 6 「起業関心層」については、2015年度調査までは「起業予備軍」と称していた。ただし類型化の方法は変えていない。

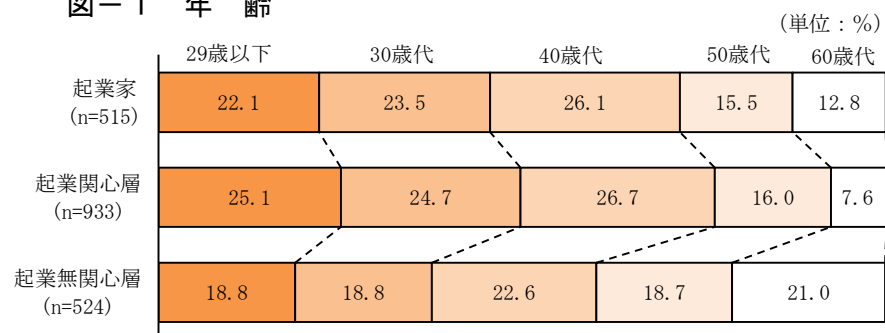
## 2 起業家・起業関心層・起業無関心層の違い（詳細調査）

### （1）属性

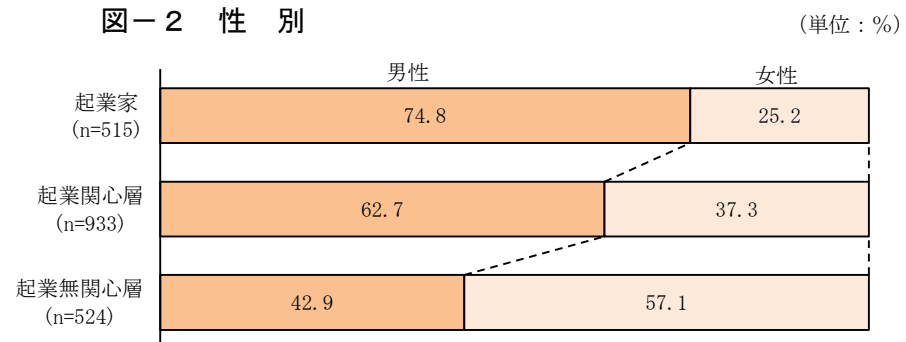
#### ～起業関心層は相対的に若い～

- 類型別に年齢（起業家は起業時の年齢）を比較すると、起業関心層では「29歳以下」の割合（25.1%）が起業家（22.1%）、起業無関心層（18.8%）よりも高く相対的に若い（図－1）。
- 性別をみると、起業家、起業関心層では男性の割合が女性よりも高いのに対して、起業無関心層では女性の割合が男性よりも高い（図－2）。

図－1 年齢



図－2 性別



(注) 1 詳細調査を集計したものである（以下同じ）。

2 起業家は起業時の年齢である。

## (2) 職業経験

～起業家は相対的に規模が小さな企業から生まれている～

- 勤務経験がある割合は、起業家、起業関心層、起業無関心層ともに約95%を占める（図-3）。
- 職業（起業家は起業直前の職業）をみると、起業家と起業関心層は、起業無関心層に比べて「会社や団体の常勤役員」「会社や官公庁・団体の正社員・職員」「家族従業員」の割合が高い（表-2）。一方で、起業無関心層は、「専業主婦・主夫」の割合が17.1%を占め、起業家（3.7%）、起業関心層（9.1%）に比べて高い。
- 業歴5年以内の企業に勤務した経験の有無をみると、「あり」の割合は、起業家では17.7%を占め、起業関心層（11.3%）、起業無関心層（5.7%）よりも高い（図-4）。
- 現在の勤務先（起業家は起業直前の勤務先）の従業者規模をみると、「4人以下」の割合は、起業家では18.5%を占め、起業関心層（6.6%）、起業無関心層（4.6%）よりも高い（図-5）。起業家は、相対的に規模が小さな企業から生まれているといえる。

図-3 勤務経験の有無

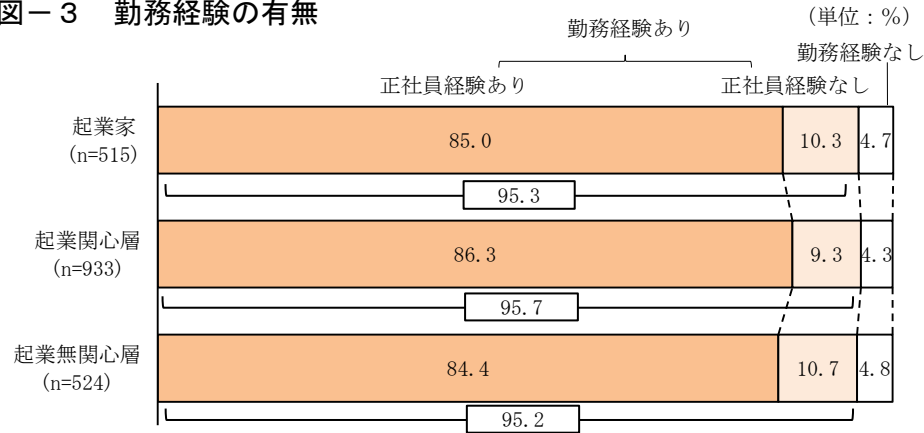


図-4 業歴5年以内の企業に勤務した経験の有無

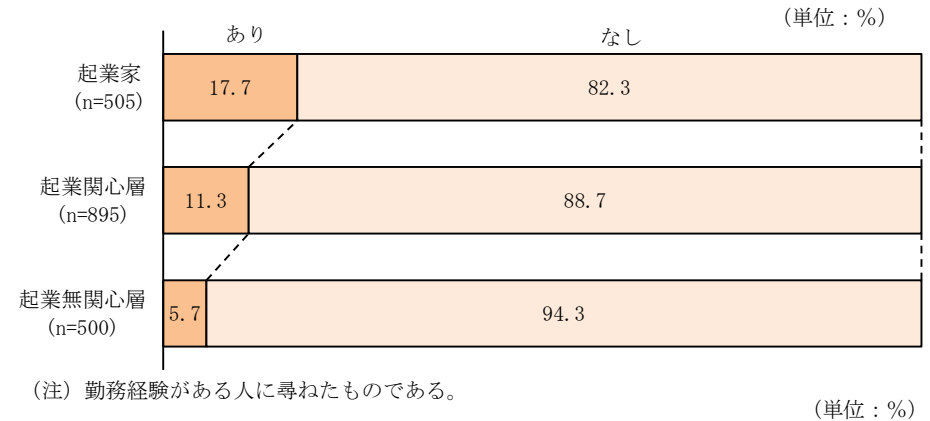
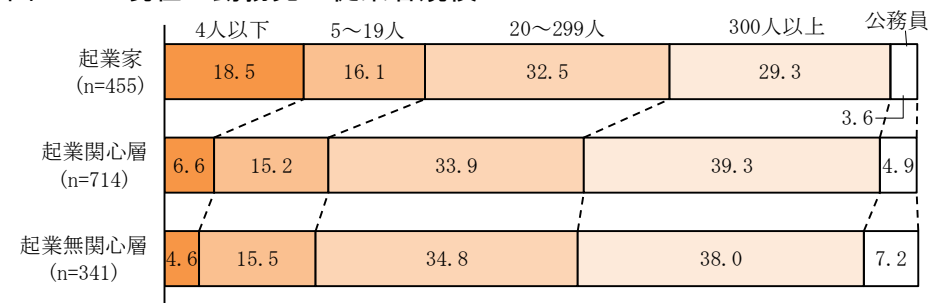


表-2 職業

		(単位: %)		
		起業家 (n=515)	起業関心層 (n=932)	起業無関心層 (n=524)
勤務者	会社や団体の常勤役員	13.0	8.5	4.9
	会社や官公庁・団体の正社員・職員	43.2	44.6	35.2
	非正社員 (派遣社員、パート等)	24.0	22.5	25.8
	家族従業員	2.9	0.9	0.4
非勤務者	学生	6.2	5.0	5.0
	専業主婦・主夫	3.7	9.1	17.1
	無職 (年金生活者を含む)	6.4	8.6	11.3
	その他	0.5	0.8	0.4
合計		100.0	100.0	100.0

(注) 起業家は起業直前の職業である。

図-5 現在の勤務先の従業者規模



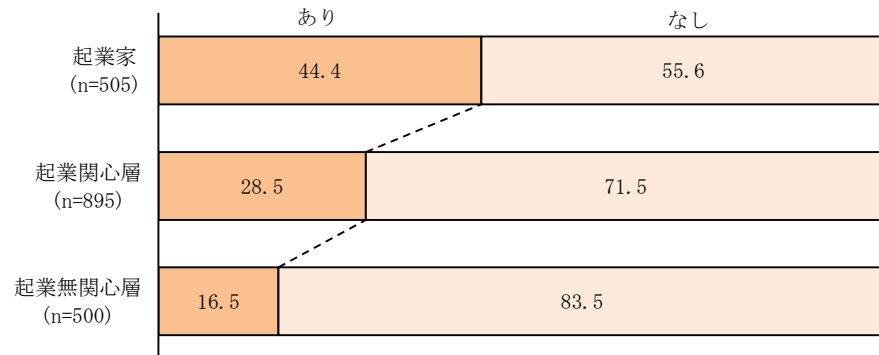
- (注) 1 現在の職業（起業家は起業直前の職業）が「勤務者」である人に尋ねたものである。  
2 起業家は起業直前の勤務先についてみたものである。

～起業家は管理職経験、営業職経験のある割合が相対的に高い～

- 起業家は、管理職経験のある割合が44.4%を占め、起業関心層（28.5%）、起業無関心層（16.5%）に比べて高い（図－6）。
- 営業職経験のある割合も同様に、起業家（45.1%）は、起業関心層（35.8%）、起業無関心層（20.1%）に比べて高い（図－7）。

図－6 管理職経験の有無

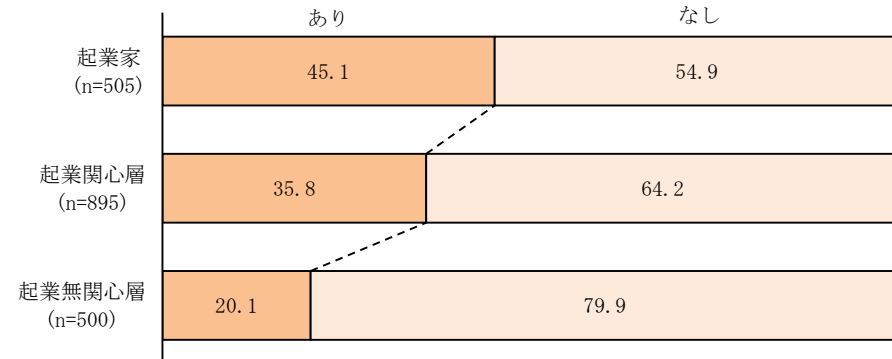
(単位：%)



(注) 1 「管理職」とは、3人以上の部下をもつ課や部などの長またはリーダーを指す。  
2 勤務経験がある人に尋ねたものである。

図－7 営業職経験の有無

(単位：%)



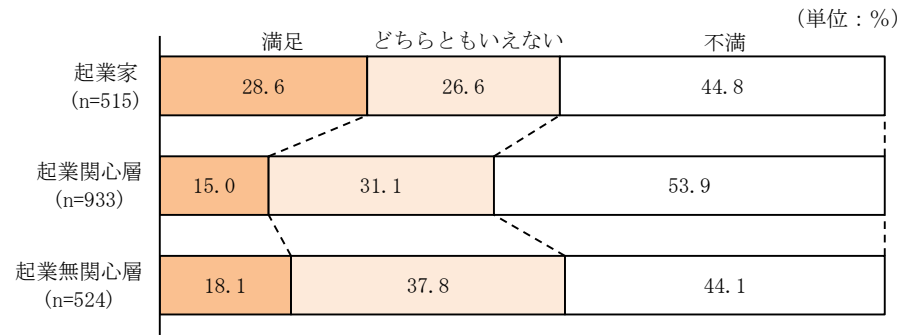
(注) 勤務経験がある人に尋ねたものである。

### (3) 満足度

#### ～起業家の満足度は相対的に高い～

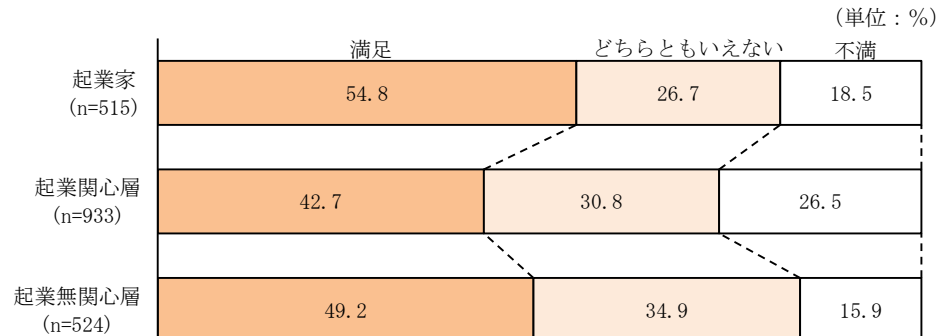
- 収入に関する満足度をみると、「満足」の割合は、起業家が28.6%で、起業関心層（15.0%）、起業無関心層（18.1%）よりも高い（図－8）。
- 仕事のやりがいについてみると、起業家の63.9%が「満足」としており、起業関心層（30.3%）、起業無関心層（36.5%）と比べて高い。一方、「不満」とする割合は、起業家は6.0%で、起業関心層（35.7%）、起業無関心層（26.9%）と比べてかなり低い（図－9）。
- 私生活（休暇や家族との過ごし方）については、起業家の54.8%が「満足」としている。これは、起業関心層（42.7%）、起業無関心層（49.2%）に比べて高い（図－10）。
- 起業家は、相対的に満足度が高く、起業関心層は低いといえる。

図－8 収入に関する満足度

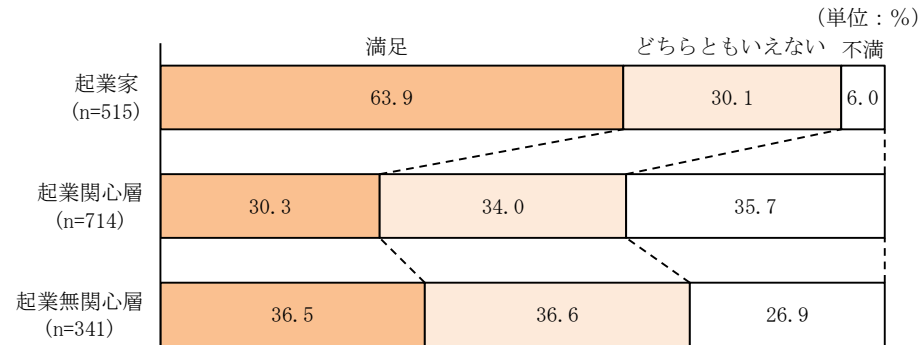


(注) 「かなり満足」「やや満足」を合算して「満足」、「かなり不満」「やや不満」を合算して「不満」と表示した（以下同じ）。

図－10 私生活（休暇や家族との過ごし方）に関する満足度



図－9 仕事のやりがいに関する満足度



(注) 「起業関心層」「起業無関心層」については、現在の職業が勤務者である人を集計した。



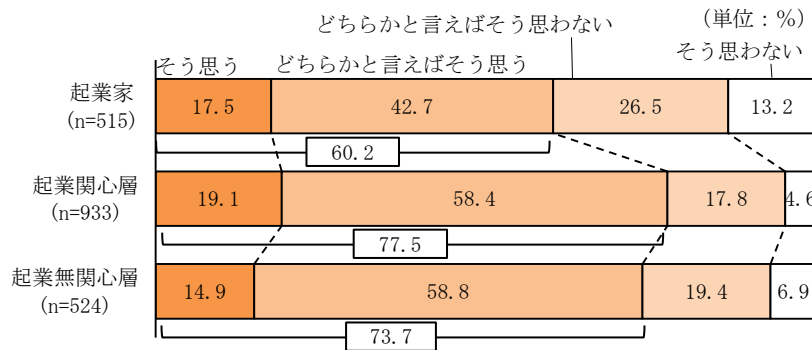
(4) 「起業家」に対して抱くイメージ  
 ～起業家のイメージは「高い収入が得られるが不安定」「自由度が高い」「能力を発揮しやすい」～

○ 起業家が勤務者に比べて高い収入が得られると思うか尋ねたところ、「思う」（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計、以下同じ）とした割合は、起業家、起業関心層、起業無関心層でいずれも6割を超えている（図-11①）。一方で、起業家が勤務者に比べて収入が安定していると思うかについて、「思う」とした割合は、起業家、起業関心層、起業無関心層いずれも2割程度にとどまる（図-11②）。

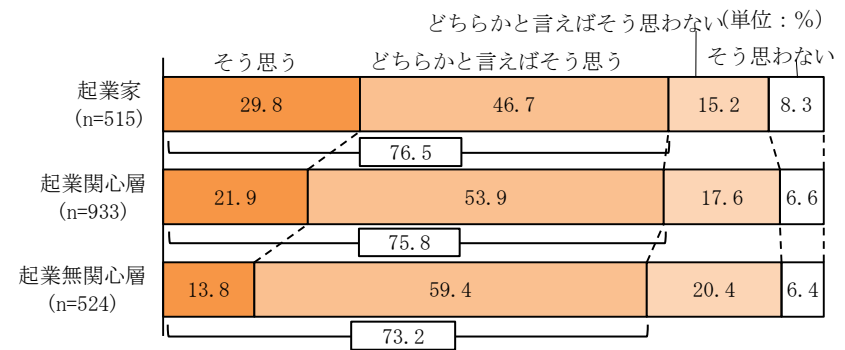
○ 勤務者に比べて自由度が高いと「思う」とした割合は、起業家、起業関心層、起業無関心層でいずれも7割を超えている（図-11③）。また、勤務者に比べて能力を発揮しやすいと「思う」とした割合は起業家、起業関心層、起業無関心層でいずれも9割前後を占めている（図-11④）。

図-11 「起業家」に対して抱くイメージ

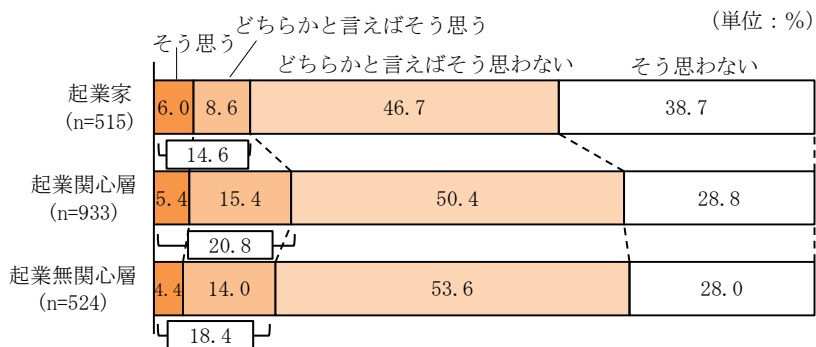
①勤務者に比べて高い収入が得られる



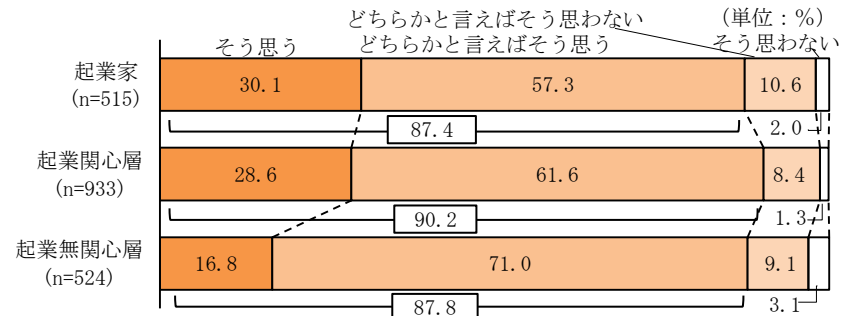
③勤務者に比べて自由度が高い



②勤務者に比べて収入が安定している



④勤務者に比べて能力を発揮しやすい



### 3 起業家の実態（詳細調査）

#### （1）主な属性

～起業家のおよそ3分の2が1人だけで起業し、6割が自宅で事業を営む～

- 起業した業種をみると、「個人向けサービス業」の割合が16.8%と最も高く、次いで「建設業」「情報通信業」「事業所向けサービス業」（いずれも10.2%）の割合が高い（表-3）。
- 起業年は、「2016年」の割合が19.9%で最も高く、「2012年」（19.5%）、「2015年」（18.2%）と続く（図-12）。
- 組織形態は、84.9%が「個人企業」である（図-13）。
- 起業時の従業員数をみると「1人（本人のみ）」が66.1%を占める（図-14）。
- 主な営業場所は、「自宅と同じ場所」が62.8%を占める（図-15）。
- 起業形態は71.2%が「専業として起業」しているが、「副業として起業」も28.8%を占め、無視できない程度存在する（図-16）。

表-3 業種

	起業家全体 (n=515)
建設業	10.2
製造業	3.3
情報通信業	10.2
運輸業	5.3
卸売業	5.0
小売業	8.9
飲食店、宿泊業	6.3
医療、福祉	4.3
教育、学習支援業	3.6
個人向けサービス業	16.8
事業所向けサービス業	10.2
不動産業、物品賃貸業	7.9
その他	7.9
合計	100.0

図-12 起業年

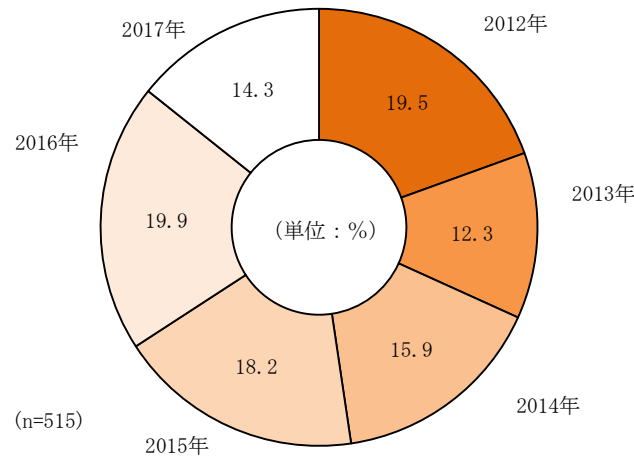


図-13 組織形態

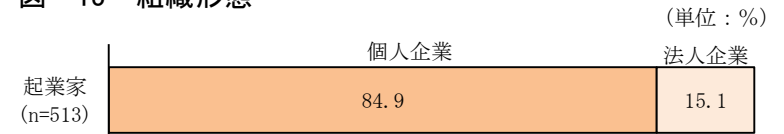


図-14 現在の従業員数

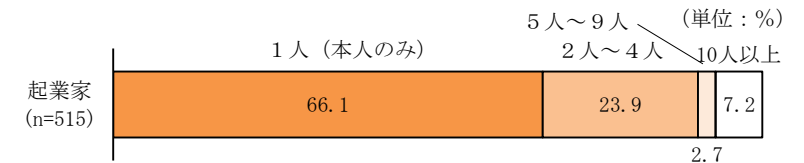


図-15 主な営業場所

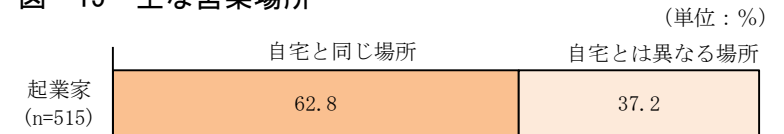
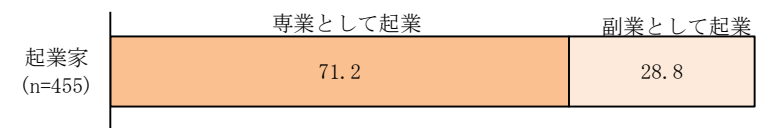


図-16 起業形態



(注) 1 起業家に尋ねたもの  
(以下図-27まで同じ)。

2 複数の事業を経営している場合、  
最も古いものについて尋ねた  
(以下同じ)。

(注) 起業直前の職業が「勤務者」である人に尋ねたものである。

(2) 起業費用とその調達  
 ～約半数が100万円未満で起業し、9割近くが借り入れをしていない～

- 起業費用をみると、「100万円未満」の少額の資金で起業する割合が48.0%を占める（図-17）。
- 起業費用の調達額に対する満足度について、「希望どおり調達できた」をあげる割合は74.1%にのぼり、「少し不足した」（16.6%）、「かなり不足した」（9.3%）を大きく上回る（図-18）。
- 起業費用に占める自己資金割合が100%である割合は70.2%を占める（図-19）。この割合を起業費用別にみると、起業費用が「100万円未満」では90.7%にのぼるが、起業費用が高くなるにつれて低くなる。
- 起業時における金融機関からの借り入れの有無をみると、「借入なし」の割合は87.7%である（図-20）。この割合を起業費用別にみると、起業費用が「100万円未満」では99.3%、同「100万円以上500万円未満」では80.2%、「500万円以上」では27.3%と起業費用が高くなるにつれて低くなる。

図-17 起業費用

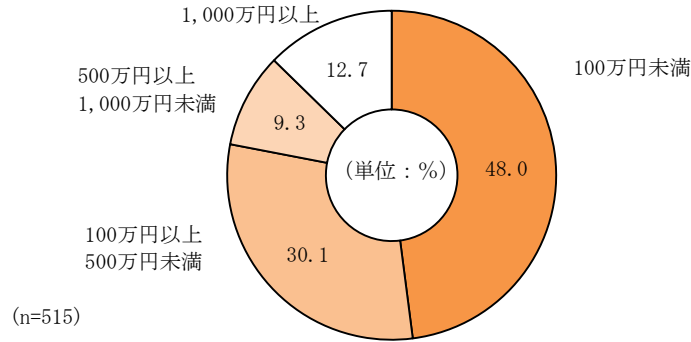


図-18 起業費用の調達額に対する満足度

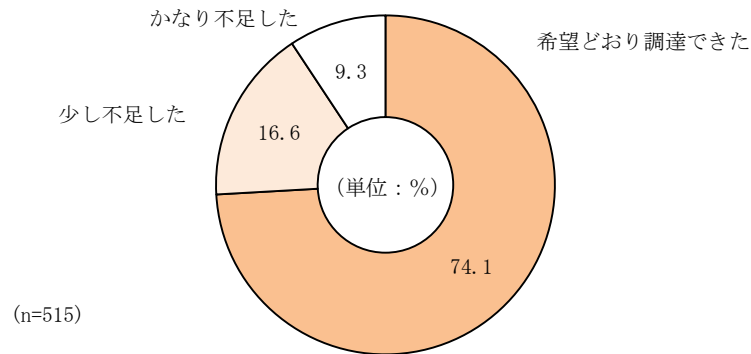


図-19 起業費用に占める自己資金割合（起業費用別）

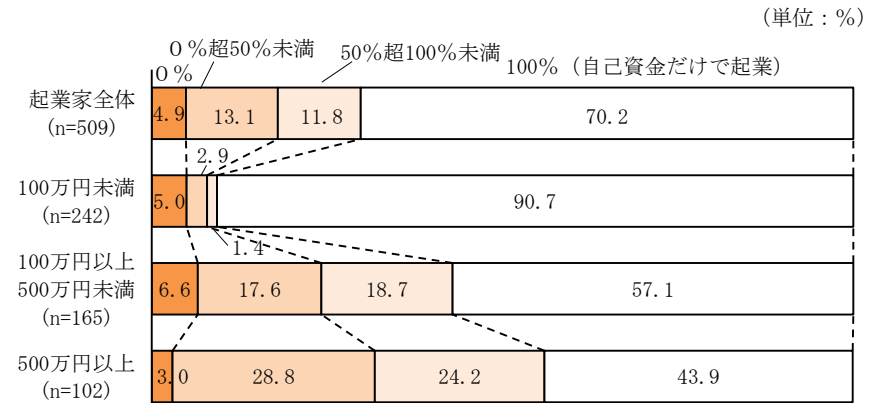
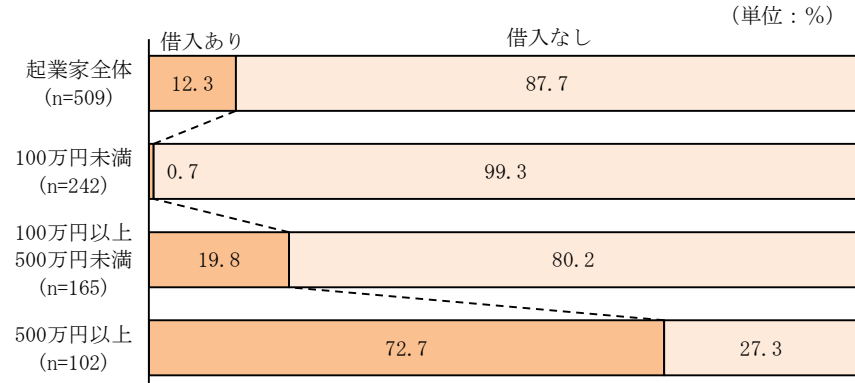


図-20 起業時の金融機関借入の有無（起業費用別）



(注) 金融機関借入とは、民間金融機関（地方自治体の制度融資を含む）および日本政策金融公庫・沖縄振興開発金融公庫からの借り入れである。

(3) 事業計画書の作成状況  
 ～3割が起業時に事業計画書を作成～

- 起業時に事業計画書を作成した起業家の割合は31.1%である(図-21)。
- 起業費用別にみるとこの割合は100万円未満では15.9%にとどまるが、500万円以上では53.0%を占め、起業費用が高くなるにつれて事業計画書を作成した起業家の割合は高くなる(図-22)。
- 起業時の金融機関借入の有無別にみると、借り入れがある起業家は73.0%が事業計画書を作成しており、借り入れがない起業家の25.8%を大きく上回る(図-23)。

図-21 事業計画書の作成状況

(単位：%)

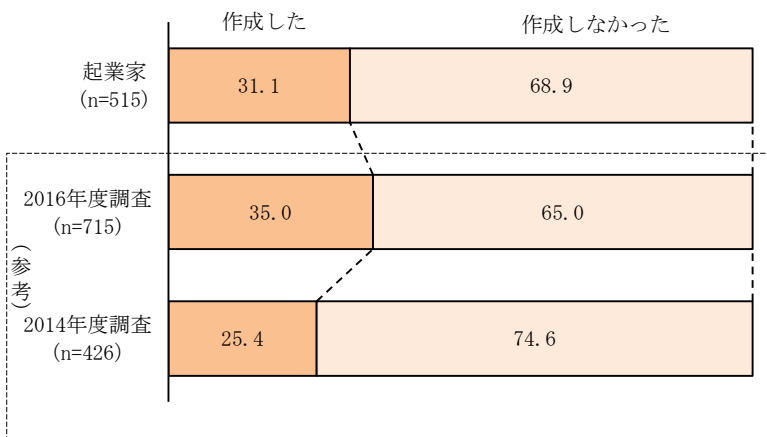


図-22 事業計画書の作成状況(起業費用別)

(単位：%)

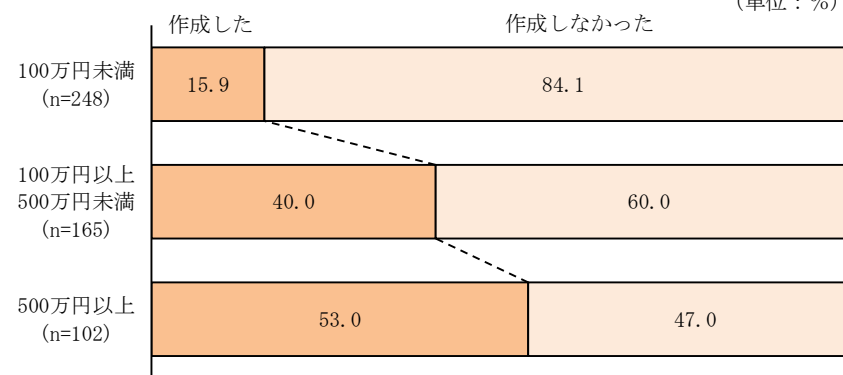
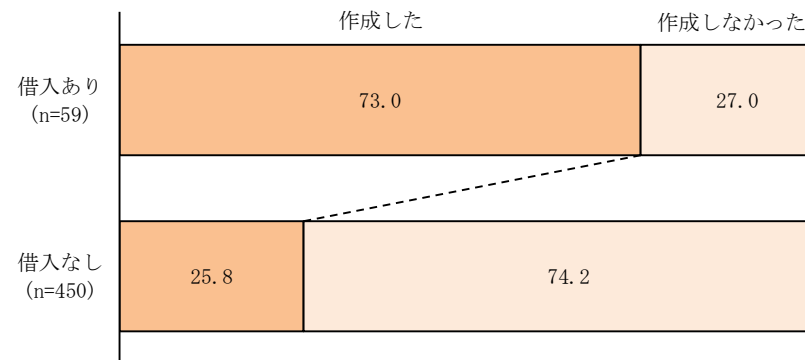


図-23 事業計画書の作成状況(起業時の金融機関借入の有無別)

(単位：%)



#### (4) 業績

##### ～売上規模は小さいが、3割が増加傾向にある～

- 現在の月商をみると、「50万円未満」が49.8%を占めており、売上規模は総じて小さいといえる（図-24）。
- 売り上げは増加傾向かという問いに対して「当てはまる」とする割合は32.3%、「当てはまらない」は16.2%、「どちらともいえない」は51.5%であった（図-25）。
- 事業は軌道に乗っているかという問いに対して「当てはまる」とする割合は、24.5%である（図-26）。

図-24 現在の月商

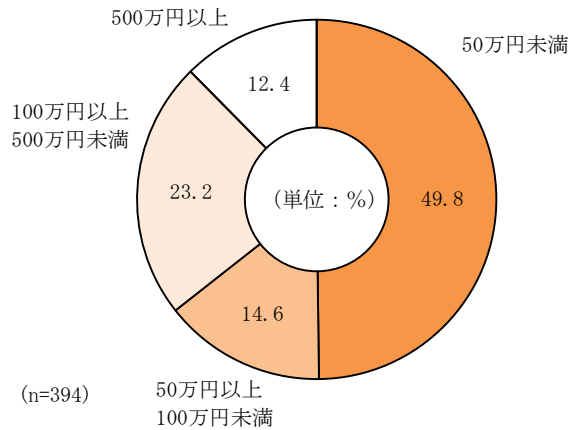


図-25 売り上げは増加傾向か

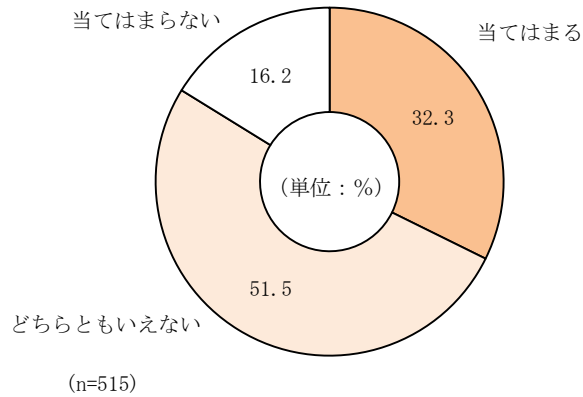
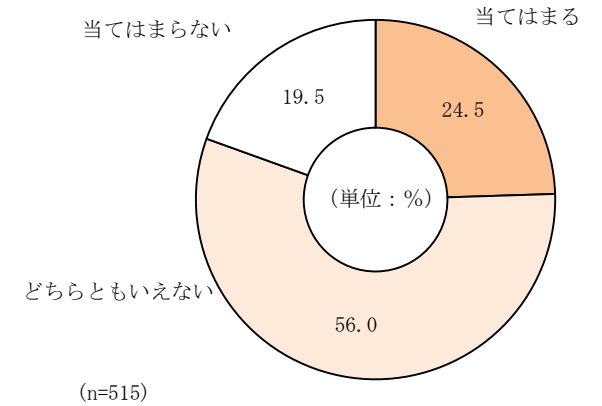


図-26 事業は軌道に乗っているか



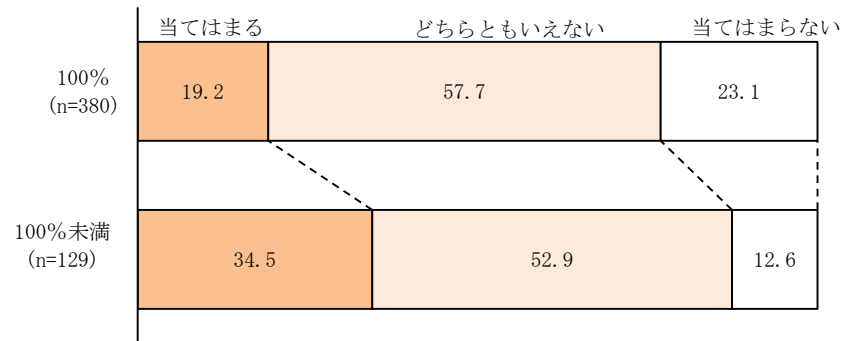
～希望どおり起業費用を調達できた起業家ほど売り上げが増加傾向である割合は高い～

- 起業費用に占める自己資金割合別に売り上げは増加傾向かをみると、「当てはまる」とする割合は、自己資金割合が「100%」の起業家では19.2%であるのに対し、「100%未満」の起業家では34.5%であった（図-27①）。
- 起業費用の調達額に対する満足度別にみると、「当てはまる」とする割合は、起業費用を「希望どおり調達できた」起業家では29.1%を占める。この割合は、「少し不足した」起業家では13.7%、「かなり不足した」起業家では6.9%であり、希望どおりに起業費用を調達できた起業家ほど売り上げが増加傾向である割合が高い（図-27②）。
- 事業計画書の作成状況別では、「当てはまる」とする割合は、事業計画書を「作成した」起業家では38.3%を占めており、「作成しなかった」起業家の17.8%を大きく上回る（図-27③）。

図-27 売り上げは増加傾向か

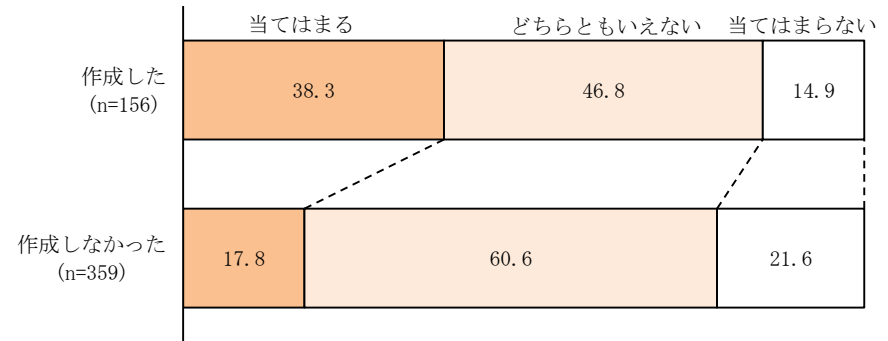
① 起業費用に占める自己資金割合別

(単位：%)



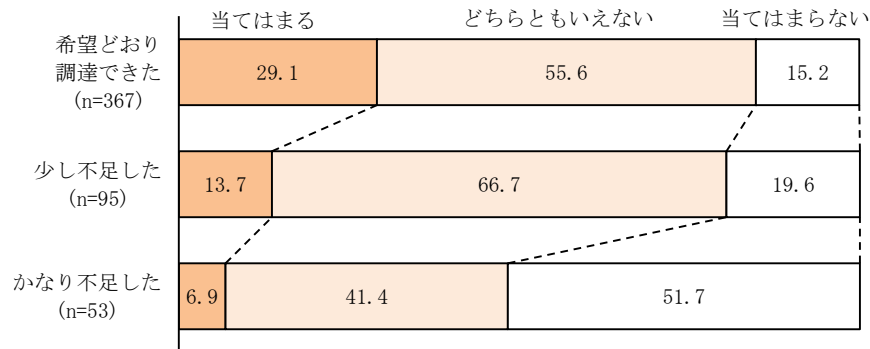
③ 事業計画書の作成状況別

(単位：%)



② 起業費用の調達額に対する満足度別

(単位：%)



#### 4 起業関心層の実態（詳細調査）

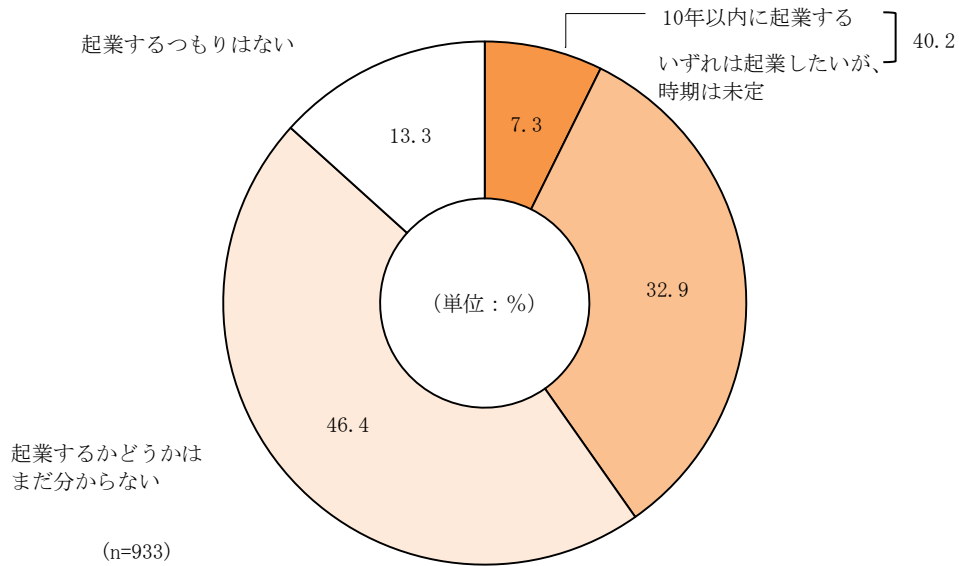
##### （1）起業予定の有無

～起業関心層の4割が起業したいと考えている～

- 起業関心層に起業予定の有無を尋ねたところ、「起業するかどうかはまだ分からない」とする割合が46.4%を占める（図-28①）。一方で、「10年以内に起業する」とする割合は7.3%、「いずれは起業したいが、時期は未定」は32.9%であり、起業関心層の4割が起業したいと考えている。
- 性別にみると、「10年以内に起業する」「いずれは起業したいが、時期は未定」とした割合はどちらも男性が女性よりもやや高い。一方で、「起業するつもりはない」とする割合は、女性が男性よりも高い（図-28②）。
- 年齢別にみると「起業するつもりはない」とする割合は、29歳以下と60歳代で2割弱を占め、他の年齢層の割合よりも高い（図-28③）。

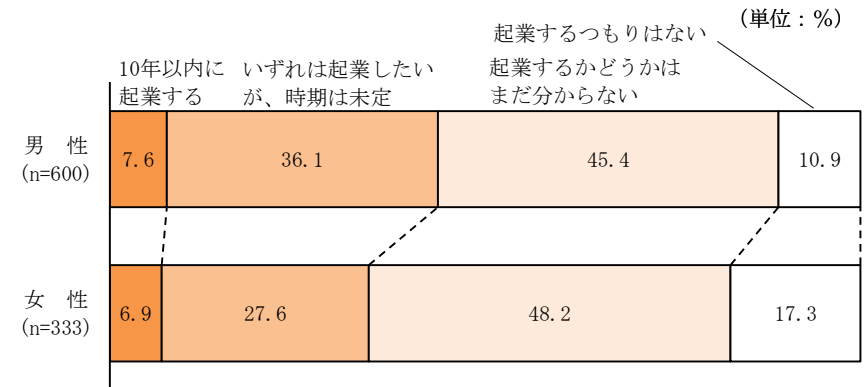
図-28 起業予定の有無

##### ① 起業関心層全体

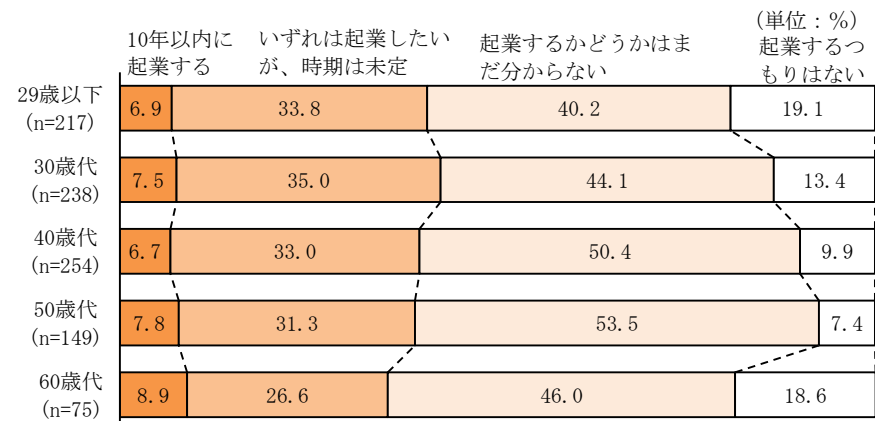


(注) 起業関心層に尋ねた設問である（以下同じ）。

##### ② 性別



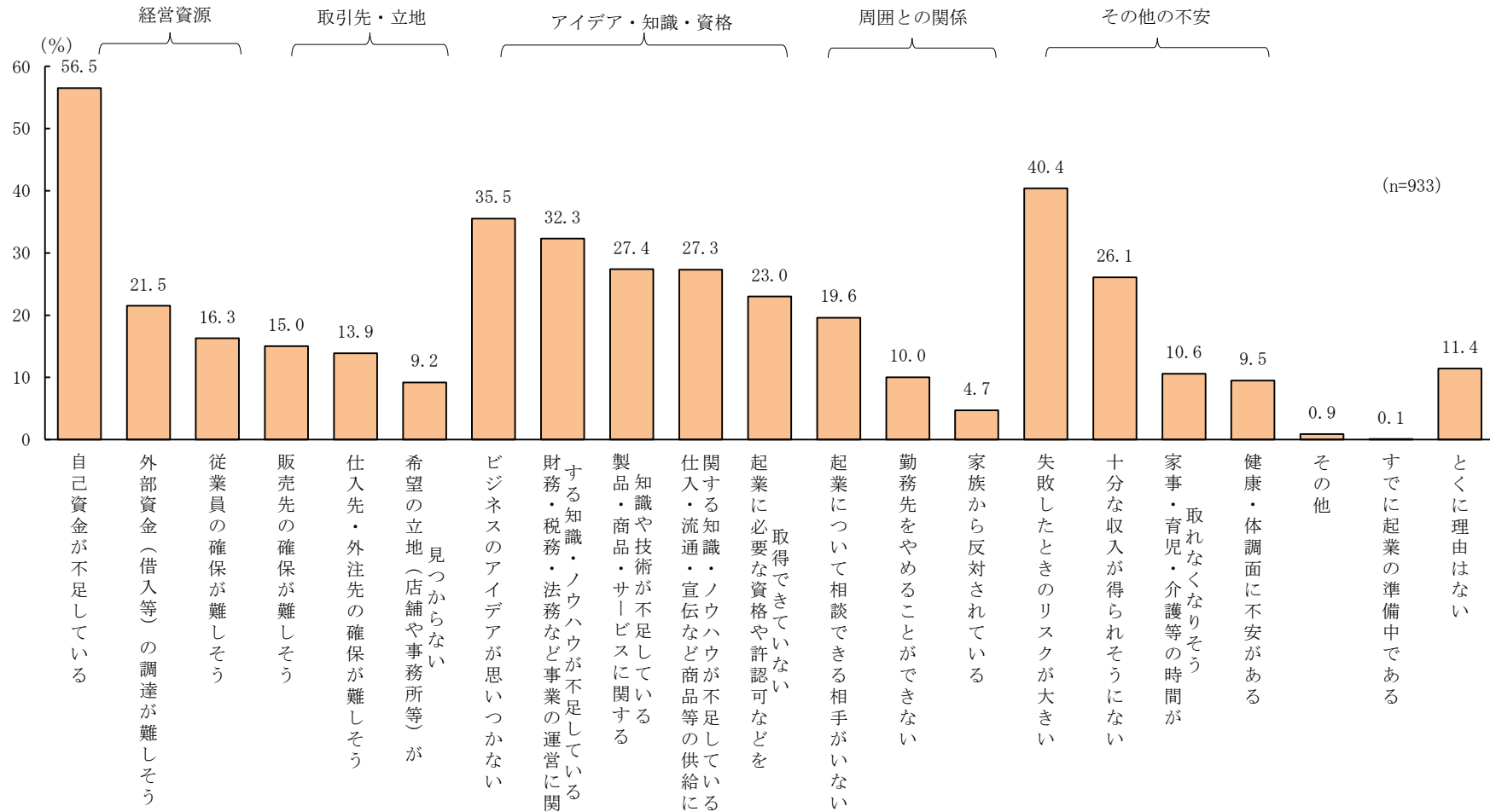
##### ③ 年齢別



(2) 起業関心層が起業していない理由  
 ~大きな理由は「自己資金が不足している」「失敗したときのリスクが大きい」~

○ 起業関心層がまだ起業していない理由をみると、「自己資金が不足している」をあげる割合が56.5%と最も高く、「失敗したときのリスクが大きい」(40.4%)、「ビジネスのアイデアが思いつかない」(35.5%)がそれに次ぐ(図-29)。

図-29 まだ起業していない理由(複数回答)





～自己資金不足と失敗したときのリスクは、男女や多くの年齢層が起業に踏み切れない共通の要因～

- まだ起業していない理由について性別にみると、「自己資金が不足している」「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合が、男女ともに高い（表－４）。
- 年齢別にみると、29歳以下から60歳代までの年齢層で「自己資金が不足している」をあげる割合が最も高い。それに次いで29歳以下では「ビジネスのアイデアが思いつかない」（37.9%）、「失敗したときのリスクが大きい」（35.6%）と続く。30歳代から60歳代までについては、「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合が2番目に高い。
- 自己資金不足や失敗時のリスクの大きさが、男女や多くの年齢層において起業に踏み切れない大きな理由であるといえる。

表－４ まだ起業していない理由（複数回答、性別・年齢別）

（単位：％）

		起業 関心層 (n=933)	男性 (n=600)	女性 (n=333)	29歳以下 (n=217)	30歳代 (n=238)	40歳代 (n=254)	50歳代 (n=149)	60歳代 (n=75)
経営資源	自己資金が不足している	56.5	55.9	57.6	54.9	61.7	53.5	59.4	49.7
	外部資金（借入等）の調達が難しそう	21.5	22.7	19.5	19.4	29.0	22.0	18.0	9.8
	従業員の確保が難しそう	16.3	19.1	11.5	13.8	23.7	16.1	15.1	3.5
取引先・立地	販売先の確保が難しそう	15.0	18.0	10.0	14.7	19.5	17.3	10.4	3.5
	仕入先・外注先の確保が難しそう	13.9	15.1	12.0	14.3	18.9	14.1	9.8	4.7
	希望の立地（店舗や事務所等）が見つからない	9.2	9.2	9.1	10.3	13.5	7.1	5.5	6.3
アイデア・知識・資格	ビジネスのアイデアが思いつかない	35.5	36.0	34.5	37.9	40.0	30.7	36.8	26.5
	財務・税務・法務など事業の運営に関する知識・ノウハウが不足している	32.3	28.0	39.6	38.2	36.8	32.7	21.5	19.6
	製品・商品・サービスに関する知識や技術が不足している	27.4	26.1	29.6	38.9	29.8	24.8	16.8	13.3
	仕入・流通・宣伝など商品等の供給に関する知識・ノウハウが不足している	27.3	23.9	32.9	34.0	31.5	27.2	17.4	12.2
	起業に必要な資格や許認可などを取得できていない	23.0	20.4	27.4	25.6	27.7	22.9	17.2	12.2
周囲との関係	起業について相談できる相手がない	19.6	18.9	20.8	18.6	21.9	20.9	21.1	8.0
	勤務先をやめることができない	10.0	11.3	7.6	4.7	12.2	11.0	15.1	5.8
	家族から反対されている	4.7	5.8	3.0	2.8	5.9	4.7	5.6	5.2
その他の不安	失敗したときのリスクが大きい	40.4	40.9	39.6	35.6	47.0	41.3	38.7	36.0
	十分な収入が得られそうにない	26.1	24.9	28.3	25.7	31.8	26.7	22.1	15.5
	家事・育児・介護等の時間が取れなくなりそう	10.6	5.9	18.6	11.4	13.6	11.9	4.8	6.2
	健康・体調面に不安がある	9.5	7.6	12.8	8.0	10.1	8.7	9.1	17.0
その他	0.9	0.5	1.5	1.4	0.4	1.2	0.0	1.7	
すでに起業の準備中である	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	
とくに理由はない	11.4	10.8	12.5	16.0	7.9	9.1	10.7	17.0	
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（注）それぞれの属性ごとに、回答割合の上位3項目を網掛けしている（1位が最も濃い網掛け、3位が最も薄い網掛け）。

～失敗したときのリスクが起業をためらう大きな理由～

- 起業予定の有無別にまだ起業していない理由をみると、「自己資金が不足している」をあげる割合は、「10年以内に起業する」とした起業関心層では55.8%を占める（表－5）。この割合は、「いずれは起業したいが、時期は未定」（60.2%）、「起業するかどうかはまだわからない」（56.3%）と大きな差はない。
- 「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合は、「起業するかどうかはまだ分からない」とした起業関心層では46.5%を占める。一方で、この割合は、「いずれは起業したいが、時期は未定」では37.7%、「10年以内に起業する」では24.1%であり、起業の予定が具体的であるほど「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合は低くなる。起業に関心があっても起業するのをためらう大きな理由は、失敗したときのリスクだといえる。

表－5 まだ起業していない理由（複数回答、起業予定の有無別）

（単位：％）

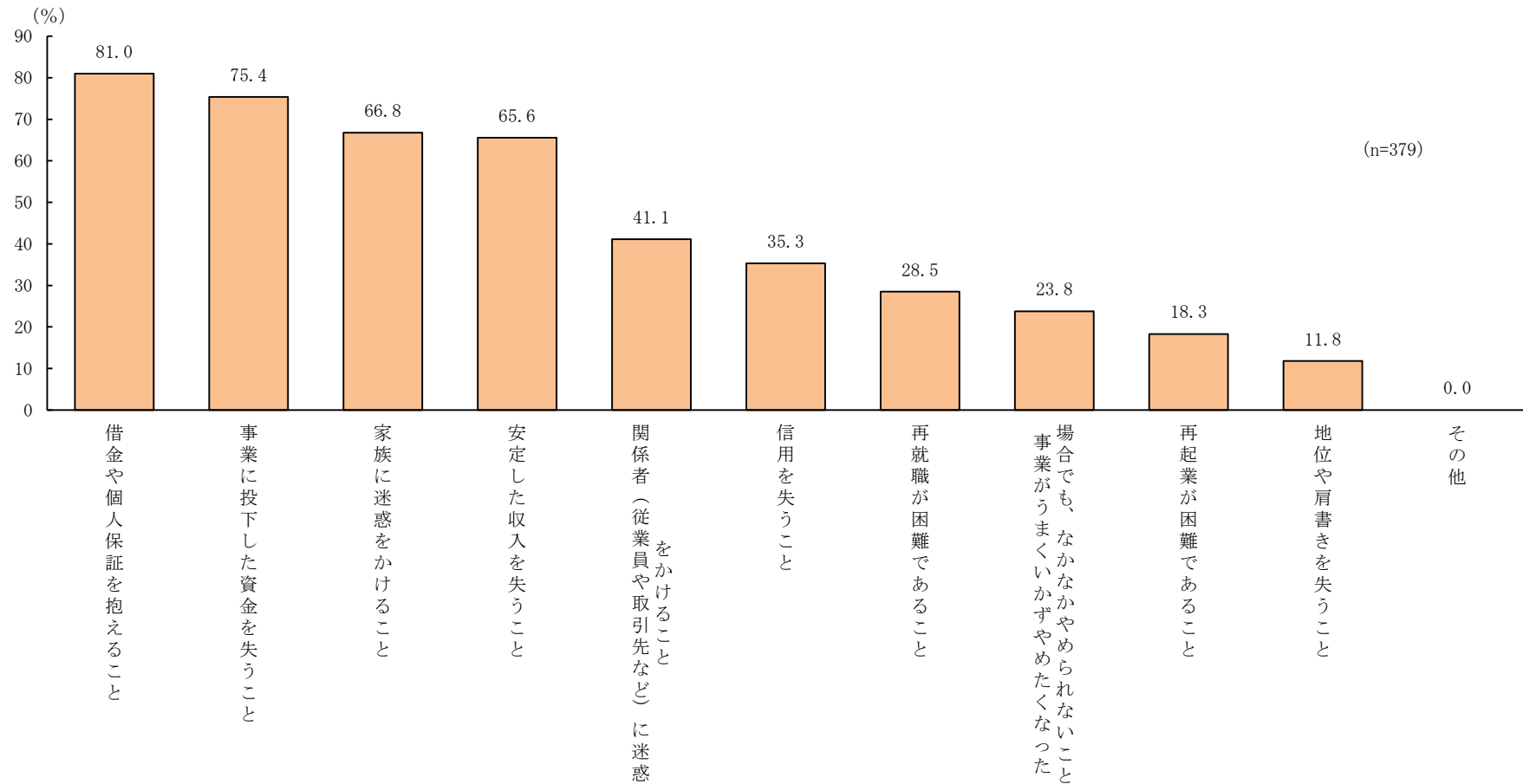
		起業 関心層 (n=933)	起業予定の有無別			
			10年以内 に起業す る (n=69)	いずれは 起業した いが、時 期は未定 (n=309)	起業する かどうか はまだ分 からない (n=433)	起業する つもりは ない (n=122)
経営資源	自己資金が不足している	56.5	55.8	60.2	56.3	48.6
	外部資金（借入等）の調達が難しそう	21.5	21.5	20.3	22.6	20.8
	従業員の確保が難しそう	16.3	22.9	16.5	14.1	19.6
取引先・立地	販売先の確保が難しそう	15.0	19.7	13.3	15.5	15.1
	仕入先・外注先の確保が難しそう	13.9	8.4	13.6	14.3	16.6
	希望の立地（店舗や事務所等）が見つからない	9.2	9.8	7.5	8.8	14.2
アイデア・知識・資格	ビジネスのアイデアが思いつかない	35.5	17.2	29.6	40.9	41.0
	財務・税務・法務など事業の運営に関する知識・ノウハウが不足している	32.3	26.2	34.2	32.5	30.7
	製品・商品・サービスに関する知識や技術が不足している	27.4	23.2	28.5	27.8	25.8
	仕入・流通・宣伝など商品等の供給に関する知識・ノウハウが不足している	27.3	17.1	30.0	26.3	29.2
	起業に必要な資格や許認可などを取得できていない	23.0	7.4	25.6	22.7	26.6
周囲との関係	起業について相談できる相手がない	19.6	10.0	21.2	20.9	16.3
	勤務先をやめることができない	10.0	11.4	10.4	10.3	7.2
	家族から反対されている	4.7	2.6	5.7	4.7	3.3
その他の不安	失敗したときのリスクが大きい	40.4	24.1	37.7	46.5	35.0
	十分な収入が得られそうにない	26.1	21.5	25.3	27.7	25.1
	家事・育児・介護等の時間が取れなくなりそう	10.6	8.5	10.2	10.7	12.6
	健康・体調面に不安がある	9.5	5.7	8.6	11.4	7.4
その他		0.9	2.8	0.7	1.0	0.0
すでに起業の準備中である		0.1	0.0	0.3	0.0	0.0
とくに理由はない		11.4	5.9	4.9	11.5	30.1
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（注）表－4と同じ

(3) 失敗したときのリスク  
 ~資金面の問題をリスクとして認識~

○ 起業に失敗したときのリスクの内容をみると、「借金や個人保証を抱えること」をあげる割合が81.0%で最も高く、「事業に投下した資金を失うこと」(75.4%)、「家族に迷惑をかけること」(66.8%)、「安定した収入を失うこと」(65.6%)と続く(図-30)。借り入れや起業費用など資金面の問題を失敗したときのリスクとして認識している割合が相対的に高いといえる。

図-30 失敗のリスク (複数回答)



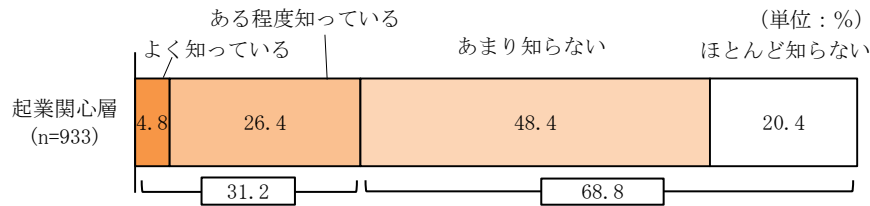
(注) まだ起業していない理由として、「失敗したときのリスクが大きい」と回答した人に尋ねた設問である。

(4) 起業に関する情報量  
 ~起業についての十分な情報をもっている人は総じて少ない~

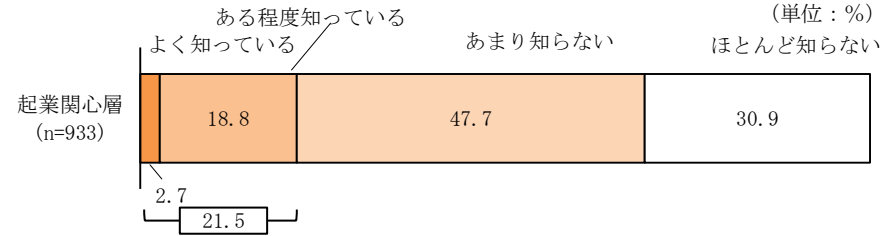
- 起業関心層に対して、起業に関してどの程度知っているか尋ねたところ、起業するにはどのような知識やスキルが必要なのか「よく知っている」とする割合は4.8%にとどまる。一方で「あまり知らない」が48.4%、「ほとんど知らない」が20.4%で、7割近くが起業するにはどのような知識やスキルが必要なのか「あまり知らない」「ほとんど知らない」としている(図-31①)。
- 起業するにはどのような費用が必要になるか、事業計画書にはどのような項目を盛り込めばよいのかについてみると、「よく知っている」とする割合はいずれも5%に満たず、「ある程度知っている」と合算しても2割~3割程度にとどまる(図-31②、③)。
- 起業にはどのようなメリット・デメリットがあるかについては、「よく知っている」「ある程度知っている」とする割合はそれぞれメリットよりもデメリットの方がやや高い(図-31④)。
- 起業に関心があるとはいえ、起業に関して十分な情報をもっている人は総じて少ないといえる。

図-31 起業に関する情報量

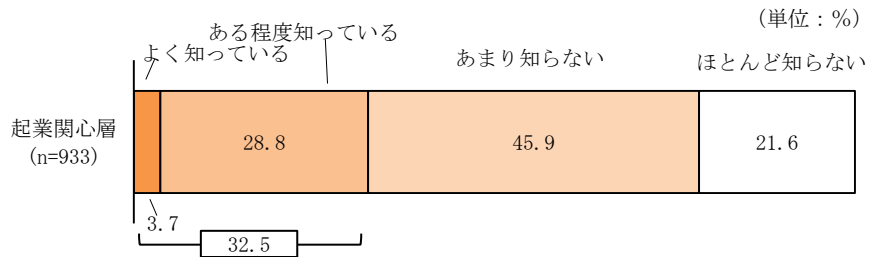
① 起業するにはどのような知識やスキルが必要なのか



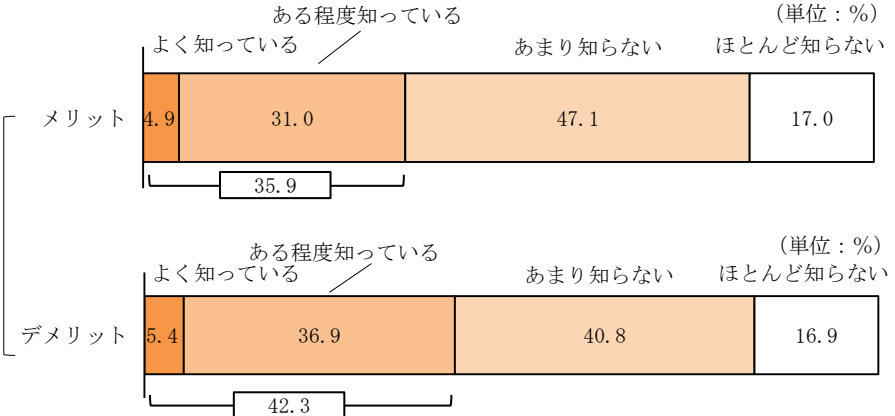
③ 事業計画書にはどのような項目を盛り込めばよいのか



② 起業するにはどのような費用が必要になるか



④ 起業にはどのようなメリット・デメリットがあるか



～起業に関する情報量が少ないほど「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合は高い～

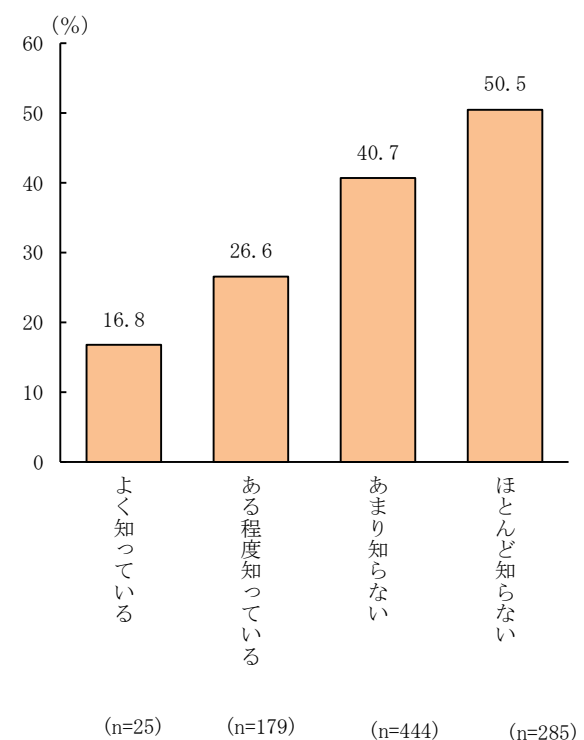
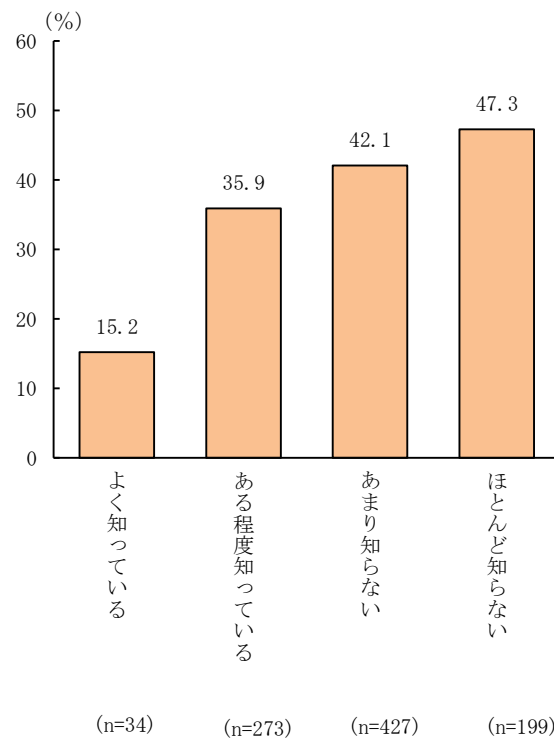
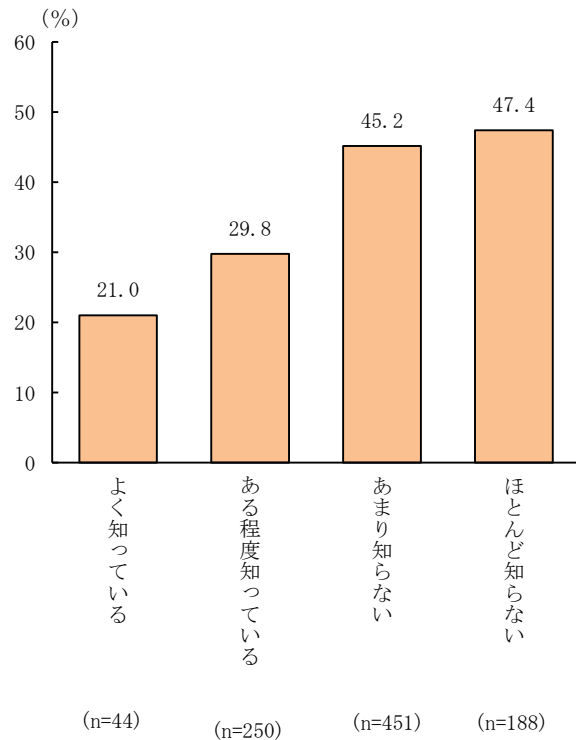
- まだ起業していない理由として「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合をみると、起業するにはどのような知識やスキルが必要なのか「よく知っている」起業関心層は21.0%であるのに対して、「ある程度知っている」は29.8%、「あまり知らない」は45.2%、「ほとんど知らない」は47.4%を占める（図-32①）。起業に必要な知識やスキルについての情報量が少ないほど、失敗したときのリスクをあげる割合が高くなる。
- 「起業するにはどのような費用が必要になるか」「事業計画書にはどのような情報を盛り込めばよいのか」についてみても、情報量が少ないほど、失敗したときのリスクをあげる割合が高くなる。（図-32②、③）。

図-32 まだ起業していない理由として「失敗したときのリスクが大きい」をあげる割合（起業に関する情報量別）

① 起業するにはどのような知識やスキルが必要なのか

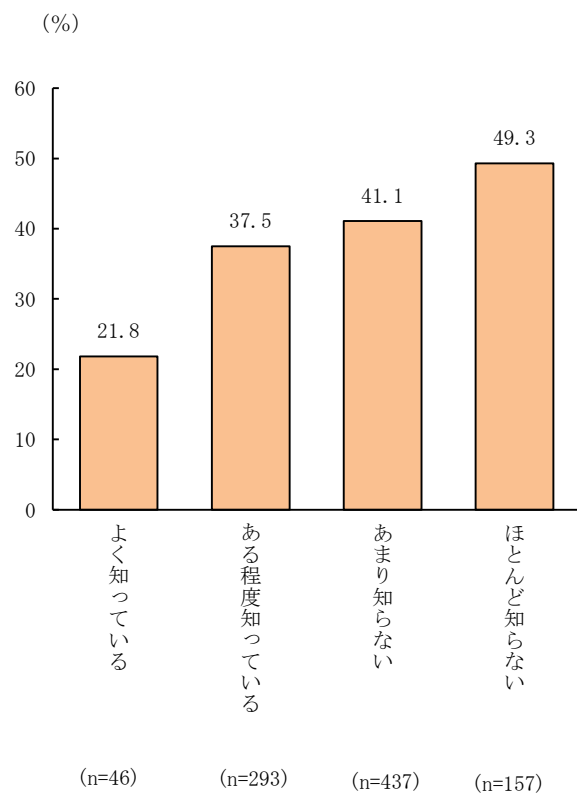
② 起業するにはどのような費用が必要になるか

③ 事業計画書にはどのような項目を盛り込めばよいのか

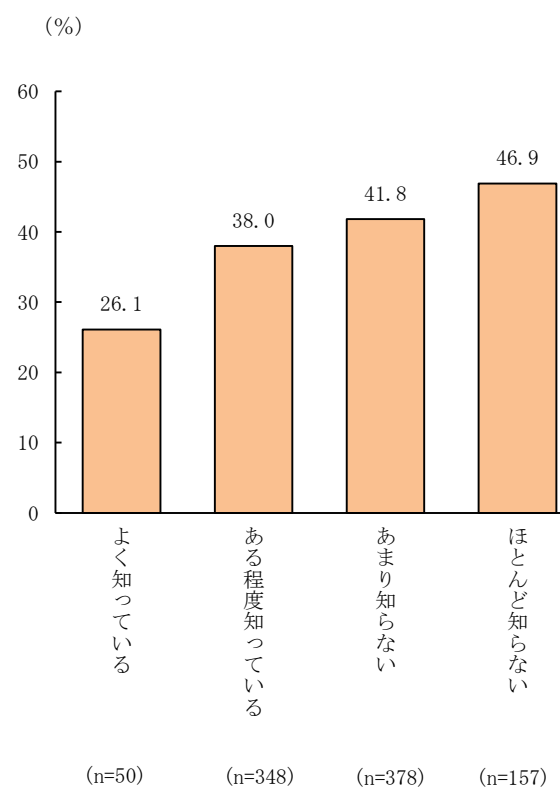


○ 「起業にはどのようなメリットがあるか」「起業にはどのようなデメリットがあるか」についても、情報量が少ないほど、失敗したときのリスクをあげる割合が高い。「ほとんど知らない」とした起業関心層の約5割がまだ起業していない理由として「失敗したときのリスクが大きい」をあげている。(図-32④、⑤)。

④起業にはどのようなメリットがあるか



⑤起業にはどのようなデメリットがあるか



### Ⅲ まとめ

#### 1 必要十分な資金調達と事業計画書の作成が業績を左右する。

起業家（2012年以降に自分で事業を始め、現在も経営している人）の業績をみると、自己資金だけで起業したからといって好業績であるとは限らない。むしろ、①自己資金での調達にこだわらず必要な起業費用を過不足なく調達すること、②事業計画書を作成することが重要である。

#### 2 自己資金不足と失敗時のリスクの大きさが起業に踏み切れない大きな理由。

起業関心層（経営経験がなく、現在起業に関心がある人）が起業していない理由としてあげる割合が高いものは、「自己資金が不足している」「失敗したときのリスクが大きい」の2つである。これは男女や多くの年齢層に共通している。

#### 3 起業について十分な情報をもっている起業関心層は少ない。

起業関心層は、起業に必要な資金の内容や事業計画書に盛り込むべき内容など起業に関する情報量が総じて少ない。また、情報量が少ない起業関心層ほど起業に失敗したときのリスクを、起業していない理由としてあげる割合が高い。

以上を踏まえると、起業関心層を起業家として顕在化させるためには、起業に関するさまざまな情報を広める必要がある。自己資金不足を理由に起業に踏み切れない人に対しては、必ずしも自己資金だけで起業する必要はないことを、失敗のリスクを理由に起業をためらう人には、事業計画書を作成することで起業に失敗したときのリスクを低減できることを含め、起業に関する正確で多様な情報を広く得られる環境を整備する必要がある。

(参考) ウェイト値の設定について

詳細調査における起業家、起業関心層、起業無関心層の性別・年齢別構成比は、実際の人口構成を反映している事前調査（A群）と比べて偏りが生じている。そこで、詳細調査の集計にあたっては、事前調査（A群）の性別・年齢別構成比に近似させるために、ウェイト値を設定した。その算出方法は次のとおりである。

①事前調査（A群）のサンプル数

(単位：人)

	起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	43	13	485	296	1,430	1,703
30歳代	45	17	485	284	1,388	1,739
40歳代	56	25	538	292	1,611	2,158
50歳代	40	9	305	192	1,301	1,818
60歳代	42	12	138	99	1,417	2,080

②詳細調査のサンプル数

(単位：人)

	起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	15	8	139	78	42	48
30歳代	55	31	147	91	42	54
40歳代	140	40	166	88	48	70
50歳代	126	20	98	51	44	60
60歳代	68	12	50	25	48	68

③ウェイト（①÷②）

	起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	2.867	1.625	3.489	3.795	34.048	35.479
30歳代	0.818	0.548	3.299	3.121	33.048	32.204
40歳代	0.400	0.625	3.241	3.318	33.563	30.829
50歳代	0.317	0.450	3.112	3.765	29.568	30.300
60歳代	0.618	1.000	2.760	3.960	29.521	30.588